

社会資本総合整備計画書(第1回変更)
(日進市)

平成30年 3月16日

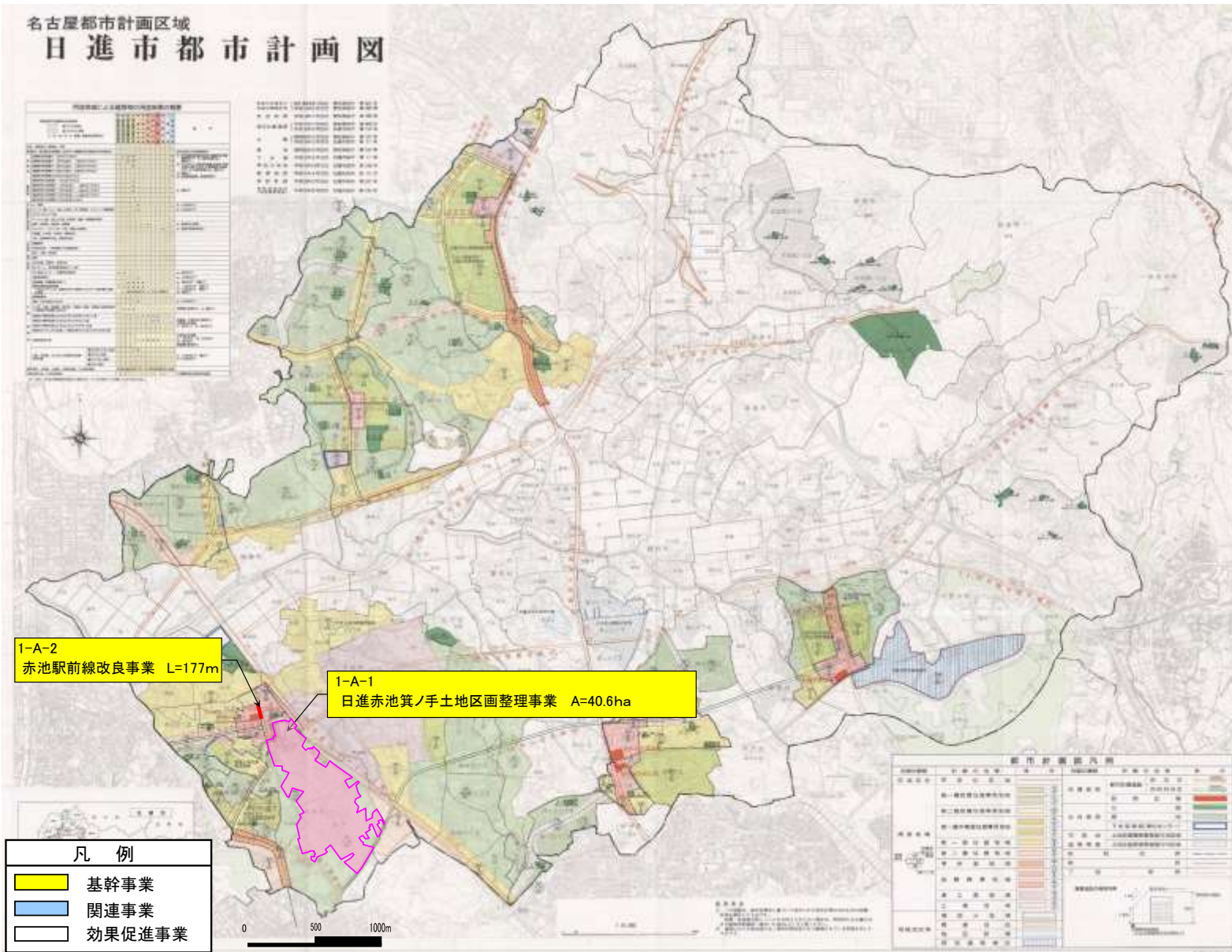
社会資本総合整備計画

平成30年 3月16日

計画の名称	1 赤池駅周辺地域における快適なまちづくり			交付対象	日進市														
計画の期間	平成28年度～平成32年度(5年間)																		
計画の目標	<p>本市は、人口が増加していることにより居宅を求める需要が高いため、名古屋市営地下鉄鶴舞線赤池駅に隣接する赤池町箕ノ手地区の基盤整備を進めている。駅周辺の基盤整備であることから、自転車等の交通空間を確保することと住環境整備を行うことにより、快適な生活環境の形成を図る。</p>																		
計画の成果目標(定量的指標)	<p>①赤池町箕ノ手地区の居住人口を1,385人(H27)から3,200人(H32)に増加させる。 ②地下鉄赤池駅の1日あたりの乗車人員数を9,550人(H27)から9,800人(H32)に増加させる。 ③赤池駅北・赤池駅前・駅東駐輪場の1日あたりの利用台数を1,536台(H27)から1,600台(H32)に増加させる。</p>																		
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考												
				当初現況値 (H27当初)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H32末)													
赤池町箕ノ手地区の居住人口(人)				1,385人	-	3,200人													
鉄道駅乗車人員数(人/日)＝地下鉄赤池駅の1日あたりの乗車人員数				9,550人	-	9,800人													
赤池駅北・赤池駅前・駅東駐輪場利用台数(台)＝赤池駅北・赤池駅前・駅東駐輪場の1日あたりの利用台数				1,536台	-	1,600台													
全体事業費	合計 (A+B+C)	525百万円	A	525百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0.0%									
交付対象事業																			
A1 基幹事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	備考	
											H28	H29	H30	H31	H32				
A13-001	都再区画	一般	日進市	間接	日進赤池箕ノ手地区区画整理組合	区画	改築	日進赤池箕ノ手地区区画整理事業	都市再生区画整理 A=40.6ha	日進市						410			
A01-002	道路	一般	日進市	直接	日進市	市町村道	改築	赤池駅前線改良事業	赤池駅前線改良 L=177m	日進市						115			
合計(基幹事業)																525			
B 関連社会資本整備事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	備考	
											H28	H29	H30	H31	H32				
合計																			
番号	一体的に実施することにより期待される効果																	備考	
C 効果促進事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考		
											H28	H29	H30	H31	H32				
合計																			
番号	一体的に実施することにより期待される効果																	備考	

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	赤池駅周辺地域における快適なまちづくり	交付対象	日進市
計画の期間	平成28年度 ~ 平成32年度 (5年間)		



社会資本整備総合交付金チェックシート

計画の名称: 赤池駅周辺地域における快適なまちづくり

事業主体名: 日進市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①基本方針・上位計画等との整合性	
1) 基本方針・上位計画等と整合が確保されている。	○
「第5次日進市総合計画」	○
②地域の課題と整備計画の目標の適合性	
1) 地域の課題と整備計画の目標が妥当である。	○
2) 整備により、目標達成の可能性が高い。	○
II. 整備計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
III. 整備計画の実現可能性	
⑤円滑な事業執行の環境	
1) 事業熟度が十分である。	○
⑥地元の機運等	
1) 事業実施のための環境整備が図られている。	○

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H28	H29	H30	R1	R2
配分額 (a)	15	40	69	80	16
計画別流用 増△減額 (b)	0	0	0	0	0
交付額 (c=a+b)	15	40	69	80	16
前年度からの繰越額 (d)	0	0	7	0	23
支払済額 (e)	15	33	76	57	34
翌年度繰越額 (f)	0	7	0	23	5
うち未契約繰越額 (g)	0	0	0	0	0
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0	0	0
未契約繰越＋不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
未契約繰越＋不用率が10%を超えている場合その理由	-	-	-	-	-

※ 平成28年度以降の各年度の決算額を記載。